

CS シリーズ シングルバンド SSB トランシーバキット

1 ページ版クイックガイド

20170403 by CRKITS.COM

(JA5GHK、JL1KRA 訳)

CS シリーズトランシーバのお買い上げありがとうございます。本クイックガイドでは、製作時に特にポイントとなることのみを解説しています。詳細な日本語マニュアルは <http://www.geocities.jp/mx6s/index.html> 英語マニュアルは、<http://crkits.com/csmanual.zip> からダウンロード可能になります。ユーチューブのサイト <https://youtu.be/D2RQTK1b1UA> にある動画では、基本的な操作方法と KN-Q7A との主要な違いについて説明がありますので視聴して下さい。本キットに関する質問ご相談は、e-mail にて rongxh@gmail.com までお送り下さい(英語)。また Yahoo group のメーリングリスト http://groups.yahoo.com/group/CHINA_QRP においても受けています(英語)。

部品確認について：

すべての抵抗、半固定抵抗、可変抵抗、ロータリーエンコーダ、 $0.1\mu\text{F}(104)$ のキャパシタ、は一纏めにして、部品袋の中のビニール袋に入っています。部品表は、<http://www.geocities.jp/mx6s/index.html> から入手可能です。

メイン基板 (20170226 版の PCB) についての注意：

・本基板は細かな差異をのぞき KN-Q7A PCB V2.2 とほぼ同じです。PCB 上のマークを見れば一目で判りますが、マーク*のある部品は、マニュアルを最後まで読んでその理由を理解するまで、取付けしないで下さい。マーク#のある部品は全て使用しません。DIY7-7*#、Xa' #、それに 2 個の Xb# は使用しません。PCB 上のマーク、x/y は 40m/20m バンドでの値を示しています。TX BPF、TX LPF、それに RX BPF 中の周波数に依存する部品にだけ適用してください。IF フィルタとアンプは、全てのバンド用に対して共通の IF 8.4762 MHz である 40m バンドの値になります。

・C3357 は表面実装部品です。パッケージ表面に RE または RF とマークされています。

・7808、D882、IRF510 は放熱のためケースの底部に取り付けます。

7808 は M3x10 のネジと M3 のナットを使って直接取り付けます。D882 は、部品とケース底部の間に絶縁シートを追加します。IRF510 はさらに絶縁シートと絶縁用のプラスチックワッシャを追加します。

SandwichVFO についての注意：

マニュアル <http://crkits.com/sandwichkitassemblymanual.pdf> をご覧下さい。ファームウェアをアップデートする際には、IF 8.4672 MHz を使用する CS シリーズ用の正しいバージョンをダウンロードして下さい。

組み立て時の注意：

キットの組み立て時に、ケースに 7 個の M3 用丸穴をあける必要があります。

穴開け用テンプレートは次の PDF を用いてください。 <http://crkits.com/knq7atemplate.pdf>

拡大縮小せずに倍率 100%で A4 用紙に印刷します。M3x10mm のネジと M3 のナットは 7808、D882、IRF510 をケースに固定するために使います。8 個の黒いネジはフロントパネルとリアパネルの固定用です。ロータリーエンコーダと LED は、ワッシャとナットでフロントパネルに固定します。

調整：

最初に sandwichVFO をキャリブレーションモードにして発振周波数を調整します。受信は RX IFT の調整で受信信号を最大として下さい。BFO キャリブレーションモードでオーディオスペクトルが約 350-2200Hz になるよう BFO の周波数を調整します。TX のバイアス電流は、最初に SET BIAS 半固定抵抗を左に回し切っておき、SET BIAS 半固定抵抗をゆっくりと時計回りに回して、電流が 60mA 増加する点に設定します(具体的には、無音声で PTT ボタンを押して、例えば 0.50A から 0.56A になるように)。最後にジャンパー UNBAL を使用し、TX IFT を調整し、最大のパワーが出るようにします。詳細は Youtube 動画と完全版マニュアルを参照してください。